

「阿見町地域公共交通計画」の策定状況について

- ・地域公共交通計画策定の概要について
- ・令和3年度阿見町地域公共交通計画基礎調査について
- ・令和4年度阿見町地域公共交通計画策定(まとめ)に向けて

令和4年5月30日

阿見町地域公共交通活性化協議会

地域公共交通計画策定の概要について

地域の移動資源をまちづくりに最大限に活かすことを念頭に置いた「地域公共交通計画」の策定が、全国の自治体に対して努力義務化されました。

◆地域公共交通計画とは

- ・地域公共交通計画は、「地域にとって望ましい地域旅客運送サービスの姿」を明らかにする「マスタープラン」としての役割を果たすものです。
- ・国が定める「地域公共交通の活性化及び再生の推進に関する基本方針」に基づき、関係者を集めて「活性化再生法に基づく協議会」を開催しつつ、交通事業者や地域の関係者等との個別協議を重ねることで作成していくものです。
- ・地域公共交通計画においては、バスやタクシーといった既存の公共交通サービスを最大限活用した上で、必要に応じて自家用有償旅客運送やスクールバス、福祉輸送、病院・商業施設・宿泊施設・企業などの地域の多様な輸送資源についても最大限活用する取組を盛り込むことで、持続可能な地域旅客運送サービスの提供を確保することを求めています。
- ・その際、交通系 IC カード等によるキャッシュレス化、Wi-Fiの整備といった最新の技術や、更には MaaS(マース:Mobility as a Service)、AI(人工知能:Artificial Intelligence)による配車、自動運転などの技術も最大限活用して生産性を向上しつつ、地域の高齢者はもとより、外国人旅行者も含めた幅広い利用者にとって使いやすいサービスが提供されることが必要です。
- ・このように、地域公共交通計画は、地域の社会・経済の基盤となるものです。そのため、基本的に全ての地方公共団体において、計画の作成や実施を「努力義務」として定めています。

「地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金」との関わり

多くの自治体は、デマンド交通等、地域の実状に応じた生活交通を維持するため、運行を支援する国庫補助金を活用しています。現在は「地域内フィーダー系統確保維持計画」の策定が補助の要件ですが、令和2年度の制度改正により「地域公共交通計画」を策定していることが必須となりました。(経過措置として、令和7年度補助申請までに策定することとなっている。)

したがって、デマンド交通等の維持のため、「地域公共交通計画」の策定は欠かせないものとなります。

- ① 上位計画・関連計画の整理
- ② 阿見町の地域現況
- ③ 公共交通等の現況
路線バスの運行状況, デマンドタクシー「あみまるくん」の
運行状況, 路線バス事業者へのヒアリング等
- ④ 公共交通利用実態調査
路線バス利用者へのアンケート, 公共交通に関する町民ア
ンケート
- ⑤ 公共交通における課題整理

公共交通における課題整理

1 公共交通の現況における課題整理

令和3年度の基礎調査の結果、課題を下記に整理する。

①町の中心機能が主に北部に集中

②交通空白地域を生む路線バス網

役場、金融機関、医療施設等の中核施設は町の北西部～北部に集積している。同時に、運行路線を有する唯一の公共交通である路線バス網も町全域をカバーしておらず、町の南部は交通空白地が目立つ状況にある。

③町外へアクセスできる公共交通は路線バスのみ

本町の公共交通において、町外へアクセスできる手段は路線バスのみとなっている。このため、町外への外出、遠方への移動の際は自家用車を利用するケースが多い状況にあり、移動手段の選択肢の拡充が課題となっている。

④デマンドタクシー「あみまるくん」の認知度

運行経路を持たないデマンド形式の公共交通であるデマンドタクシー「あみまるくん」は、運行開始以来登録者・利用者共に増加傾向(コロナ禍の影響を除く)にあり、一部の利用者にとって有効な移動手段として定着している。その一方、認知度が低い状況にあることがアンケート調査結果から明らかになり、さらなる利用促進、周知等が必要な状況にある。

2 公共交通利用実態調査結果からの課題整理

●路線バス利用者アンケート

①町内⇄土浦駅の移動ニーズの対応

調査結果から、路線バスの利用者の多くは土浦駅への(からの)アクセスを主たる目的地としている。また、目的は「通勤・通学」が多く、このため、利用者のニーズに即した運行内容への見直し等を実施していくことが求められている。

公共交通における課題整理

②電車と路線バスの接続性の検討

町内に鉄道駅を擁さない本町にとって、多くの路線バス利用者が電車と併せた移動を行っている。そのため、電車とバスの乗り継ぎ・乗り換えの利便性の向上も含めた路線バスの運行内容の検討も必要である。調査結果では、概ね運行内容に関しての満足度は高いが、運行本数についての満足状況は、課題となっている。

●町民アンケート

①高い水準の自動車依存の定着

回答者の約7割が免許返納意志の無い(決めていない)状況にあり、進展する高齢化社会において高齢ドライバーの増加が懸念される状況にある。

②公共交通の認知率・利用率の顕著な低さ

回答者の多くが、日常的に公共交通を利用していない状況にあり、デマンドタクシー「あみまるくん」をはじめ、公共交通の利用促進、周知等を含め、マイカー依存からの転換を少しずつ促進していく必要がある。

③町内⇄荒川沖駅のアクセス性の向上

町民の約6割が主に利用する駅を「荒川沖駅」と回答しているが、駅までのアクセス手段として公共交通を利用する人は極めて少ない状況にある。上記同様、マイカーもしくは家族等の送迎によるアクセスが多く、自動車に依存せずとも駅までアクセスできる手段の拡充が必要な状況にある。

④デマンドタクシー「あみまるくん」の、幅広い層に向けた周知

先述の通り、一部の利用者によりのみ定着しているデマンドタクシー「あみまるくん」を、より幅広い層に利用して貰えるための利用促進、周知等が必要な状況にある。

本調査の結果、自動車依存傾向が高い本町においては、適切な公共交通の需要と供給が必要と考えられる。

利便性の高い公共交通整備を目指し、「阿見町地域公共交通計画」を策定していく。

令和4年度阿見町地域公共交通計画策定に向けて(まとめ)

■令和3年度の基礎調査を基に, 下記項目を行う。

令和4年度阿見町地域公共交通計画策定の主な項目

- ① 地域公共交通の役割と課題の整理
- ② 地域公共交通計画策定の必要性の明確化
- ③ 基本方針の検討及び設定
- ④ 計画目標の設定
- ⑤ 目標達成のための施策の体系整理
- ⑥ 施策・事業の内容検討
- ⑦ 計画の達成状況の評価

上記の項目を、地域交通活性化協議会、パブリックコメント等における協議や意見収集, 有識者・関係機関との連携を通し、「阿見町地域公共計画」の策定を行う。